

## インタビュー

## マイクロエース株式会社



写真1 本社及び本社工場

## Q1. 会社沿革と社名の由来

1952年、宮崎編機工業企業組合としてスタートした。編機に使用する部品のめっきやプレスを自ら行っていたため、めっきを主とする事業に方向転換した。

1995年、柳義一が社長となるタイミングで、めっきの厚さが数〜数10ミクロンであること、かつそのめっき業界でエースになるという方針から宮崎マイクロエース(株)と社名を変更した。さらに大きく飛躍したく2006年宮崎を除きマイクロエース(株)に社名変更し、2006年には工場と研究開発エリアを持ったテクノロジーセンター(TRC)を開設した。



写真2 テクノロジーセンター

代表取締役：柳 義一

設立：1952（昭和27）年11月1日

本社：〒880-0036 宮崎県宮崎市花ヶ島町京出1411-1

電話 0985-25-4696

テクノロジーセンター：

〒880-0303 宮崎県宮崎市佐土原町東上那珂

17588-59

電話 0985-30-5630

事業内容：金属表面処理

HP：<http://www.micro-ace.co.jp>

## Q2. 業務内容についてお聞かせ下さい。

電子部品から半導体製造装置、航空機、自動車関連まで幅広い分野のめっき加工、アルミニウム陽極酸化等金属の表面処理を行っている。

主な表面処理は、めっきとして

- ・チップ部品へのニッケル・スズめっき
- ・電子基板へのニッケル・金めっき
- ・スピンドルや回転軸への高精度硬質クロムめっき
- ・汎用部品から精密部品までの機能性無電解ニッケルめっき
- ・小物の大量品へのラック及びバレル亜鉛めっき

等がある。また、アルミニウム陽極酸化として

- ・自動車のルーフレール
- ・大型バイクのスイングアーム

等がある。特に好調なのは、大手自動車メーカーから依頼を受けたルーフレールのアルミニウム陽極酸化処理である。

写真3  
自動車のルーフレール写真4 大型バイクの  
スイングアーム

### Q3. 社会に対してのアピールポイントをお聞かせ下さい。

新しいものを世の中に出すためには、研究・技術開発が必須である。これまで蓄積してきた表面処理技術を活用した新たな技術を開発するため、大手取引先や大学などと連携した共同開発にも力を入れている。研究開発はすぐには実を結ばないため、常に3-5年先を見据えて取り組んでいる。

取引先からの要望に応えるだけでなく、一歩進んだ先の技術を開発し、それを展開していく。その中には、エネルギー消費量の削減や環境負荷の低減といった時代の要請に沿ったものもある。

特許出願にも力を入れる。特許庁のハンズオン支援も活用し、経営戦略や将来のビジョンと特許出願の方向性を決める計画である。

今年、当社は創業70周年を迎える。これからも『表面処理技術で世界を変える』という気概を持って、新たな分野にも果敢に挑戦していく。

### Q4. 学会との係わり、期待することについてお聞かせ下さい。

中小企業と学会との間に距離を感じる。学会=論文=学術的なもの=自分達には縁のないもの、という印象である。維持会員や賛助会員になって欲しいといった依頼を受けることもあるが、会員になって会誌が届いても、その会誌から直接役に立つ情報を得ることが少ないように感じ、疎遠となっている。

先日、社員から申し出があり、貴学会に研究論文でなくテクニカルレポートというものを提出した。論文のような学術的に深い内容でなくても、新規性があれば結果のみの報告でも学会誌に掲載されると説明を受け、『電解硫酸法による高耐食陽極酸化技術の開発』について報告した。この発表がこれまでと異なる形で事業の展開につながればと期待している。

貴学会に要望するのは筋違いかもしれないが、中小企業は高額な分析装置を保有することが難しい。また、その分析装置の購入云々の前に、自分達の知りたいことをどう分析すれば知ることができるのかの知識も少ない。関東レリサーチセンター等分析会社に相談すれば短期間で結論を得ることができるのだろうが、立会いも認められず分析に関係する情報は結果以外開示されない部分も多い。分析は一例だが、中小企業では装置や知見において不足している部

分が多く、それを相談できる門戸の広い学会を期待する。

### Q5. 会社の一押しについてお聞かせ下さい。

今年度が最終年であるが、2019年4月から2022年3月までの3年間、経済産業省の補助金事業の1つである戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン事業)に『電解硫酸技術を活用した屋外で白化しにくいアルミ合金製品と表面処理装置の開発』という計画名で採択され、現在実施している。



写真5 インタビュー時の柳義一社長

この事業を通し、硫酸を電気分解して強酸化剤を得る電解硫酸技術をアルミニウム陽極酸化処理に応用する技術を開発している。テーマ目標を達成しており、近々の事業展開を楽しみにしている。

社長になった当初から、『大手と下請け』という考え方が嫌だった。相手が大手企業でもあくまで『対等』。その姿勢を貫くには、他社にはない技術があるという自負がなければならない。世界初の家庭用編機を発明した先代の精神を引き継ぎ、これからも自分達の技で世界を変えていきたい。

お忙しい中インタビューに応じて頂きました。期して感謝の意を表します。

(日本材料科学会 編集委員 永井達夫)